

# 小牧市へ要望書提出 会員商工業者の声を行政へ

10月23日、平成29年度の小牧市への要望書を、成瀬会頭から山下市長(表紙写真)と玉井市議会議長へ手渡しました。

以下で要望内容を掲載します。



▲左から加藤副議長、玉井議長、成瀬会頭

小牧市におかれましては、日頃から市内産業の振興、市民生活の向上並びに当会議所運営につきまして格別のご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

小牧市におかれましては、平成26年5月の「小牧市企業新展開支援プログラム」の制定に始まり、昨年3月の「小牧市 まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「観光振興基本計画」、7月には商工業を中心に「中小企業振興基本条例」が施行され、小牧市の発展に向けた制度が整備されて運用の実施が期待される時期となりました。

当所としては、小規模事業者に対する支援事業について策定した「経営発達支援計画」も国の認定を受け2年目に入り、「小規模事業者への経営発達支援事業(経営状況分析、経営計画策定・実施支援、市場調査支援、需要開拓支援等)」を伴走型で順次推進しているところです。

つきましては、会員の声等を意見集約した「平成30年度施策並びに予算に関する要望」を下記のとおり取りまとめましたので、特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

## 1. 小牧市企業新展開支援プログラム施策の 検証と工場用地の確保について

ここ数年、小牧市の発展に貢献してきた地元会員中小企業が、操業継続は希望するものの一企業で対応できない用途地域などの規制の問題で市内での拡張・移転を断念し、近隣または周辺市町村に転出する事例が出はじめています。小牧市におかれましても、企業立地窓口での個別相談や7月に実施された産業振興アンケートの調査などでも把握されているかと存じます。小牧市企業新展開支援プログラムが制定され、諸施策の実施される中、本社が転出される状況は問題と考えます。小牧市としてこの地元中小企業の課題に向けてどのように対処していかれるのか方向性を示していただきたいと存じます。併せて都市計画法上の様々な用地確保の規制がある中ではありますが、地元中小企業育成の観点から工場用地等の確保への小牧市の支援を要望致します。

## 2. 産業支援センターの設置稼働について

小牧市企業新展開支援プログラムの中で小牧市に(仮称)中小企業サポートセンターの構想が示されてから、はや3年以上が経過し、図書館移転等の諸問題の見通しがついた今、新事業展開の促進を推進する施設として、開設が待たれます。平成30年度に十分な予算確保いただき、早期の開設を目指して取り組まれることを要望致します。



▲山下市長(右)に説明する速水専務理事(左)



### 3. 小牧市中小企業振興基本条例の活用について

小牧市中小企業振興基本条例の推進にあたり、各主体(市、商工会議所、金融機関、大学、中小企業団体)の代表による意見交換の場として車座会議を開催し、出た意見をまとめ持って帰って再検討することとされました。商工会議所としては、この条例と市の施策が連動することが望ましいと考えています。その上で「車座会議の運営」は形式的な座談会に留まらず、市全体の施策へ反映する貴重なアイデアを発掘する場であると考えます。条例の趣旨を市内に反映させるため、市の幹部が出席されるなどし、市の施策に反映頂ける場としても車座会議をご活用いただくよう要望致します。

### 4. 市内中小業者への積極的発注について

小牧市における受注案件に関しては、競争入札を含め市内企業者への参入機会も改善されていますが、「地産地消」を推進する小牧市としてより積極的に市内中小企業者への発注をお願いいたします。毎年、官公需法に基づき「中小企業・小規模事業者むけ契約の実績及び目標」金額が示されていますが、今年7月に示された契約比率目標は金額ベース比率 55.1% (前年比 3.3 ポイント増) となっております。また、創業 10 年未満の新規中小企業者向け契約目標として官公需総額に占める割合を 2% とすることが設定されております。小牧市もこの国の目標に沿い、この施策を推進いただけるよう大企業・中小企業等の契約状況を把握され、地元中小企業を活用されるよう要望致します。

### 5. 観光振興基本計画(観光白書の活用)について

観光振興基本計画の主旨は、市外に小牧市にある地域資源の魅力(観光イメージ)を発信することで、小牧市を訪れる観光客(交流人口)の増大を図ることにあると考えています。市外の方に対し、観光協会や民間事業者が積極的に関わることが期待されます。小牧市におかれましても平成 30 年度には(仮称)史蹟センターがオープンされる予定であり、市外に対して観光協会を中心に小牧市

のイメージを発信する大きなチャンスと考えます。従来の広報予算枠に限定されるのではなく、各種情報ツールを駆使したプロモーション活動に必要かつ十分な予算措置を要望致します。



▲小牧市のシンボルである小牧山

### 6. 小牧駅周辺整備について

既に小牧市では、桃花台線小牧駅高架部分や駅舎の撤去後の跡地の有効活用に向けて、愛知県と協議を進めておられると伺っております。小牧駅舎の周辺部分の計画づくりに当たっては、メロディーパーク、駅舎、駅西広場、A街区、ラピオと連続する小牧市の顔となる場所です。将来を見据えた小牧駅周辺の都市機能アップとなるよう計画されることを要望致します。



▲A街区(現在は駅西駐車場)

### 7. 抜本的な治水対策について

去る7月14日の集中豪雨により、味噌地区を中心に道路が冠水し、多くの住宅や店舗・工場が浸水の被害にあわれました。小牧市行政施設にお



いても、広域避難場所である「味岡市民センター」が浸水しております。こうした災害は、近年の異常気象により数年おきに、頻繁に同じ場所で繰り返されています。今回の度重なる経験を基に市の治水に対する防災計画の基準の再点検（1時間当たり降水量 50 mm 基準の見直し）も含め、抜本的かつ早急な対策を要望致します。小牧市の補助制度「浸水防止塀設置補助金」などの見直しについても実情に合わせ実施されるよう併せて要望致します。

### 8. 防災拠点づくりについて

東南海トラフ地震が予想される中、平成 27 年 3 月、国の中央防災会議の幹事会にて策定された「南海トラフ地震における具体的な応急対策に関する計画」において、県営名古屋飛行場は「大規模な広域防災拠点」に位置付けられています。一方小牧市は企業立地上、他地区と比し高速道路網や地盤の安定性などに優位性があり、広域防災拠

点として位置づけることにより、更なる企業価値を上げることが期待されます。首都圏、京阪神圏に次ぐ中部圏の基幹的広域防災拠点として、具体的には救助・救急、消火活動等、医療活動、物資の受け入れ・集積・分配を行う広域防災拠点として、県営名古屋飛行場が早急に整備されるよう、国・県に積極的な働きかけを要望致します。



▲県営名古屋飛行場



## 会員ふれあい交流事業

## ～ふれあい芋煮会を開催～

**開催日** 11月5日(日)

**会場** JA尾張中央 本店 駐車場

**参加者** 395名

当所地域活力向上委員会の企画運営による会員ふれあい交流事業『ふれあい芋煮会』がJA尾張中央、JAエビ芋研究会の協力を得て開催しました。北里地区で生産されている伝統野菜「エビ芋」と、小牧発祥! 「名古屋コーチン」を具材とした芋煮鍋が振舞われる中、参加者相互の交流が図られました。



▲ふれあい芋煮会の様子



## メールマガジン発行!

小牧商工会議所が実施する事業や経営に役立つ幅広い情報をタイムリーにお届けするため、当所でメールマガジンの配信を行っております。

ご登録のない事業所で、配信ご希望の場合は、下記のメールマガジン専用アドレスへ「配信希望」とご送信下さい。

➡ [mailmaga@komaki-cci.or.jp](mailto:mailmaga@komaki-cci.or.jp)

**購読  
無料**

## 年末年始休業のお知らせ

当所は12月29日(金)～1月3日(水)まで、休業させていただきます。

会員の皆様にはご迷惑をお掛けいたしますが、宜しく願い申し上げます。

小牧商工会議所